是川中

基礎・基本の定着（確かな学力）を目指した授業づくり

～特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　吉田　浩之

１　研究主題について

本校の学校目標は、「自分から学習に取り組む生徒の育成」～楽しく、わかる授業の工夫を目指して～である。本校が抱える課題として、基礎・基本が身に付いていない低学力の生徒が一定数いること、発達障害やそれに類した特性を示す生徒が年々増加していること、苦しいことや辛いことへの耐性が弱く、頑張りがきかない生徒が少なくないことなどが挙げられる。

本校の学校目標である「楽しく、わかる授業」を具現化し、全ての生徒に学ぶ喜びを感じさせ、確かな学力を身に付けさせるためにも、特別支援教育の視点に立った深い生徒理解と、日頃の授業における「授業のユニバーサルデザイン」の実践が必要不可欠であると考える。

そこで、今年度も昨年度に引き続き、「基礎・基本の定着（確かな学力）を目指した授業づくり」～特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫～を本校の研究主題として設定した。

特に今年度は、「授業のユニバーサルデザイン」の中でも、昨年度までの取り組みである「学習の流れ、めあての提示」に加え、新たに「視覚的・具体的な指示や説明の工夫」に重点的に取り組みたいと考える。

２　研究のねらい

基礎・基本の定着（確かな学力）を目指すために、特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫をすることによって、全ての生徒が学ぶ喜びや楽しさを感じ、学力の向上につながることを明らかにする。

３　研究仮説

特別支援教育の視点を取り入れた授業を工夫し実践することで、全ての生徒が意欲的に授業に参加し、基礎・基本の知識や技能の習得が図られ、主体的に学習する生徒を育成することができる。

４　研究内容

(1)　「授業のユニバーサルデザイン」による分かる授業づくり

ア　授業構成の工夫

イ　つまずき防止、解消の工夫

ウ　学習の流れ、めあての提示

エ　参加意欲を高める工夫

オ　視覚的・具体的な指示や説明の工夫

①簡潔で具体的な表現を用いた指示

②視覚的に提示しながら指示や説明

③文字の大きさ、文字量、色、まとまりを工夫した板書やワークシート

④実物・カード・写真の活用

⑤課題に取り組むための手順表の提示

カ　肯定的な評価

(2)　１人１台端末の有効活用の仕方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
5	31	授業参観週間①(~6/10)
7	7	＜午前＞　教育指導課訪問　　＜午後＞　授業研究（要請訪問） 教　科：道徳科　　学　級：３年２組　　授業者：教諭　戸田　洸介　先生 題材名：人命救助～踏切で倒れている人を助ける～、「生命」松山千春 講　師：教育指導課主任指導主事　大野　勉　先生 ・研究授業についての研究協議 ・道徳科の指導法と評価の在り方について
11	5	授業参観週間②(~11/18)

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
7	28	１人１台端末を活用した授業づくり 講師：八戸市総合教育センター主任指導主事　石井　一二三　先生 内容：講義・演習（Google Workspace、デジタル教科書の活用方法を中心に）
8	19	ＪＳ研修会①　特別支援教育の視点を生かした指導の工夫 講師：教育指導課副参事兼主任指導主事　日向端　聖　先生 内容：特別支援教育の視点を生かした指導の工夫について
11	22	ＪＳ研修会② 小学校の授業の参観、全体会、分科会

６　研究の成果

(1) 授業参観週間を２回実施するとともに、導入を工夫した授業を行うことによって、生徒の課題追究意欲を引き出すことができた。また、授業のユニバーサルデザインを取り入れることによって、支援が必要な生徒をより意識した授業を進めることができるようになり、教師の授業力向上につながった。

(2) 教科の授業だけでなく、学校行事等様々な場面で積極的に１人１台端末を活用することによって、生徒の個に応じた学習や主体的な学びの機会が増えるとともに、作業の効率化や合理化が図られた。

７　研究の課題

(1) 学力格差に対応した指導の在り方（上位層を伸ばす工夫、下位層への個別指導）

(2) 新学習指導要領に対応した評価方法の吟味（指導と評価の一体化、生徒同士の相互評価、自己評価）

(3) 授業のまとめや振り返りにおける記述力の育成

（記入者　増田　美保子）